

敗将によって広まった 東郷元帥のロシアでの名声

明治三十八年（一九〇五）の日本海海戦で、ロシアに完勝した東郷平八郎元帥の名は、世界を駆け巡りました。

同盟国イギリスでは「東洋のネルソン」と称えられ、日本人で初めて『TIME』誌の表紙を飾っています。ロシアの脅威に晒されていたトルコでは一九〇五年に生まれた男児の多くが、「トーゴ」と名づけられたほど。

そしてその名声は意外なことに、敵国ロシアでも広がりました。しかも、敗れたバルチック艦隊の司令長官・ロジェストヴエンスキー中将が、それにひと役買っていたのです。

旗艦クニヤージ・スヴォーロフで指揮をとっていたロジェストヴエンスキーは、連合艦隊の砲撃により重傷を負い、駆逐艦に移乗します。しかしその輸送中に駆逐艦「漣」に発見されて、降伏、捕虜となりました。

ロジェストヴエンスキーは、負傷した頭部や足の手当てのため、佐世保海軍病院へ入院。その数日後、包帯に包まれ、衰弱しきっていた彼を、東郷平八郎が見舞ったのです。

東郷はロジェストヴエンスキーに握手を求め、部下を指揮した閣下を心から敬服すると伝えました。ロジェストヴエンスキーは、東郷の手をしばらく握りしめた後、東郷に対して感謝と、敬意を述べたといっています。

この東郷の紳士的な対応と、両司令官の、互いを称え合う様子は、日本だけでなく、ロシアにも美談として伝わりました。

東郷が世界から名将と賞賛された理由は、大勝利を収めただけでなく、武士道精神を彷彿とさせるその人柄も評価された結果なのかもしれません。



ロジェストヴエンスキー



東郷平八郎

三笠だより

記念艦三笠の艦内には様々な絵画が展示されています。今回ご紹介するのは「ロジェストヴエンスキー中将を見舞う東郷元帥の図」です。

生涯にわたり東郷元帥を尊敬した ロジェストヴエンスキー中将

東郷元帥は負傷したロジェストヴエンスキー中将を佐世保海軍病院に見舞います。展示されている絵画には中央にロジェストヴエンスキー中将を見舞う白い軍服姿の東郷元帥、左端には石井佐世保海軍病院院長、右手に通訳の山本大尉、右端には秋山真之参謀の姿も見えます。普段は寡黙で知られる元帥は、随伴していた将校が驚くほど言葉を尽くして中将をいたわったそうです。中将はその礼節を尽くした扱いに感銘を受け、生涯にわたって東郷元帥を尊敬し続けたといわれています。また、艦内展示室には中将からロシア皇帝ニコライ一世に送られた書状なども展示されています。合わせてご覧いただければと思います。



三笠艦内に展示されている、ロジェストヴエンスキー提督を見舞う東郷元帥の絵。

今月のおすすめ商品

三笠サーモステンレスボトル（定価二千元）55度6時間、30度で24時間の保温が可能です。



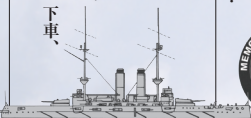
今月の読者特典

三笠売店で『歴史街道』二〇二〇年三月号を見たと、先着10名様にロゴマークマウスパッドをプレゼント！



記念艦三笠

観覧料金
大人 600円
65歳以上 500円
高校生 300円
小中学生 無料
京急横須賀中央駅もしくはJR横須賀駅より
三笠循環バスで「三笠公園」下車、徒歩1分



TEL : 046 (822) 5225
<http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/>
神奈川県横須賀市稲岡町 82-19